

高齢者虐待発見のポイント

1. 高齢者にみられるサイン

《身体的虐待についてのサイン》

- 身体に小さな傷が頻繁にみられる。
- 通常ではありえない場所にあざ、キズ、みみず腫れや火傷の跡がある。
- 急におびえたり、怖がったりする。
- 傷やあざの説明のつじつまが合わない。

《放棄・放任（ネグレクト）のサイン》

- 住居、居住部屋が極めて非衛生的、ゴミの散乱や汚物が放置されていたり、悪臭がしたりする。
- 寝具や衣服、身体が汚れたままになっていたり、身体から異臭がする。
- 適度な食事が用意されておらず、空腹を訴えることが多くなり、栄養失調の状態になる。
- 病気の症状が明白なのに病院に連れて行ってもらえていない。

《心理的虐待のサイン》

- かきむしりや噛み付き、ゆすり等がある。
- 不規則な睡眠（悪夢、眠ることへの恐怖、過度の睡眠等）を訴える。
- 身体を萎縮させる。
- おびえたり、わめいたり、泣いたり、叫んだりする。
- 過食や拒食がある。
- 自傷行為がみられる。
- 体重の不自然な増減や、無力感、投げやりな様子がみられる。

《性的虐待のサイン》

- 肛門や生殖器からの出血や傷がみられたり、痛みやかゆみを訴える。
- 急に怯えたり、怖がったり、人目を避け一人で過ごす時間が増えたりする。
- 通常の生活行動に不自然な変化がみられる。

《経済的虐待のサイン》

- 年金・財産収入等があるのに、本人が自由に使えるお金がないと訴える。
- 経済的に困っていないのに、利用負担のあるサービスを利用したがない。
- お金はあるのにサービスの利用料や生活費の支払いができない。
- 資産の保有状況と本人の生活状況との落差が激しくなる。
- 預貯金が知らないうちに引き出された、通帳が取られたなどと訴える。

2. 養護者に見られるサイン

- 高齢者に対して冷淡な態度や無関心さがみられる。
- 高齢者の世話や介護に対する拒否的な発言がしばしばみられる。
- 他人の助言を聞き入れず、不適切な介護方法へのこだわりがみられる。
- 高齢者の健康や疾患に関心がなく、医師への受診や入院の勧めを拒否する。
- 高齢者に対して乱暴な口のきき方をする。
- 経済的に余裕があるようなのに、高齢者に対してお金をかけようとしない。
- 高齢者や家族（養護者）が、主治医や保健、福祉担当者と会うこと、話すこと、援助を受けることをいやがる。
- 高齢者や家族（養護者）が、主治医や保健、福祉担当者に話す内容が変化し、つじつまが合わない。

3. その他のサイン

- 自宅から高齢者や介護者・家族（養護者）の怒鳴り声や悲鳴・うめき声、物が投げられる音が聞こえる。
- 庭や家屋の手入れがされていなかったり、放置の様相を示していたりする。
- 郵便受けや玄関先が手紙や新聞で一杯になっていたり、電気メーターがまわっていなかったりする。
- 気候や天気が悪くても、高齢者が長時間外にいる姿がしばしば見られる。
- 同居の家族がいるのに、高齢者がコンビニやスーパー等で一人分のお弁当を頻繁に買っている。
- 近所づきあいがなく、訪問しても高齢者に会えなかったり、嫌がられたりする。
- 高齢者が道路に座り込んでいたり、徘徊している姿が見られたりする。

（参考 ～東京都高齢者虐待対応マニュアル（東京都）～）

以上のサインは、「気づき」のための一例を挙げたに過ぎません。

「サイン」には、高齢者、養護者の言動、高齢者の身体状況、表情、精神状況など「人」そのものに関わるものと、部屋の状況、臭（におい）、食事、身なりなど「生活状況」に関わるものがあるとと言えます。

高齢者の虐待は、高齢者の身内の方々のみならず、高齢者の身の周りの方々や地域の方々も、こうしたサインから「気づく」ことができるものなのです。